

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02315

研究課題名(和文) 難民の時代とその表現：1930-50年代北東アジアにおける移動と文化活動

研究課題名(英文) The Age of the Displaced Person and its Representation: the Movement and Cultural Activities of the Displaced Person in the 1930-50s Northeast Asia

研究代表者

坪井 秀人 (Tsuboi, Hideto)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：90197757

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1930-50年代北東アジアにおける 難民 化した日本人および韓国朝鮮人などの文化活動について理論研究・文化活動研究・比較研究の3部門から研究を行った。理論研究については難民研究の基礎的文献の読書会等を開き、国内および海外から講師を招聘してワークショップを開催した。比較研究については『ツルオカ』『日本新聞』などの分析を進めた。最も力を注いだ文化活動研究については、旧満洲の長春、ハルビン、シベリアのハバロフスク、イルクーツク、サハリン(旧樺太)のユジノサハリンスク等において調査を行うとともに各地の主要大学とワークショップを共催し、当地の研究者との研究ネットワークを構築することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

旧満洲・シベリアにおいて日本人留用・抑留者によって発行されていた雑誌・新聞の分析を進めるとともに、旧満洲・シベリア・サハリンを訪問して調査を行うことで、彼らの文化活動の背景にある歴史的な文脈をとらえることが出来た。とりわけソ連侵攻以後に難民化した人々の具体的な状況とそれが彼らの種々の表現活動に与えた影響に関する最新の学術的知見を、中国・ロシア等の研究者との共同作業を通じて得られたことは大きな成果である。日本人抑留者の活動を文化や表現という視点から総合的に研究したものは少なく、かつ抑留者の遺骨返還など、未解決の戦後処理問題が関心を集める中で、本研究の成果は少なくない貢献をなしているものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This project investigated the cultural activities of Japanese and Korean refugees (displaced person) in Northeast Asia during the 1930-50's. Regarding with the theoretical research, we held workshops with lecturers invited from Japan and overseas. As for the comparative research, "Tsuruoka" and "Nihon Shinbun" were analyzed. With regard to research on cultural activities, we conducted surveys in Changchun and Harbin in the former Manchuria, Khabarovsk and Irkutsk in Siberia, and Yuzhno-Sakhalinsk in Sakhalin, etc. We also organized workshops with major universities in various places, and were able to build a research network with researchers in these places.

研究分野：日本近代文学

キーワード：難民 抑留 留用 シベリア サハリン 旧満洲 戦後責任 北東アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は移民から引揚げに至る北東アジアにおける日本人の「移動」の過程を描いた文学・芸術を取り上げ、そこに「難民」という視点概念を媒介させることによって、作家たちの表現や、難民化した無名の人々(抑留者・留用者など)の表現を分析し、それらを「文化活動」という動態の中に位置づけたものである。

(2) 研究代表者と研究分担者の平田由美、北原恵は科研費プロジェクト「ジェンダーのグローバルイゼーション研究：移動のポリテクスと身体の変容」、「「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究」において、日本を中心とした「移動」の歴史的事象をめぐる研究に参画し、研究代表者が主宰して分担者の北原恵、石川巧、川口隆行、渡辺直紀らが参加して行った国際日本文化研究センター共同研究会プロジェクト「戦後日本文化再考」(研究期間 2015-2018)でも本研究に深く関連する研究を行っていた。本研究はこれらをさらに展開させる企図をもって着想され、先行プロジェクトの分析視角に新たに北東アジアという空間軸と 1930-50 年代という時間軸を挿入し、新しい研究世代への架橋をも意識しながら統合発展させることを目指すものであった。

2. 研究の目的

(1) 本研究では「難民」という概念の理論的精査を行うことを主眼とし、欧米の最新の難民研究、また国内で難民支援活動を続ける NPO 代表者や映像作家、制作者を招聘してその理論の実践的なヴァージョンアップを図ることを目的とした。研究代表者・研究分担者が関わった「移動」研究を発展させ、抑留・留用・引揚げ等の戦後体験までを構造的に包括する新しい「難民」概念の構築を目指した。

(2) 本研究では開拓民や移民労働者が戦争の勃発によって望まない移動を強いられ、抑留・留用などの過酷な状況に置かれ、戦後日本への復帰と社会への適応という過程を辿る中で生み出された「表現」に注目し、その背景と構造を考察することを目的とした。職業作家とは異なる移民や難民の主体がその体験から紡ぎ出した多様な表現を、彼らが編纂した文芸雑誌や文化活動の調査を通して発掘し、それを従来の文学史や美術史とは異なる視角から再評価を与えようとした。具体的には、満洲やサハリンへの移民、満洲での留用、シベリアやサハリンでの抑留そして各地域からの引揚げなど、日本人および朝鮮人の様々な「移動」の経験とその記録・表象を調査考察することを目指した。

(3) 本研究のプロジェクトは文学研究者を中心に美術史や映画研究の研究者が加わって構成されており、文学・美術・映画等の各分野において総合的・横断的に文化活動が展開されると

見る立場から研究を進めた。この視点に基づいて難民経験を主題とした作家たちの表現を分析した。複数の分野に跨って創作を行った作家の活動に焦点を当てると同時に、留用や引揚げの経験の表現をもとに編纂された雑誌における芸術的な越境についても考察を加え、さらに複数の分野における表現方法を比較し、それがどのように映画や演劇などの文化活動に展開されていたのかを調査した。地域間比較、言語や文化を異にする主体間の比較研究を行うことも目的の一つだった。サハリンや満州、朝鮮など北東アジアの地域で言語的・文化的な移動越境が日常的に行われていたことに着目し、それぞれの地域語の研究者との共同作業を進めることが出来た。

3. 研究の方法

(1) 理論研究、文化活動研究、比較研究を三つの柱として共同作業を遂行した。では、ベン・シェファードやアンドリュー・バーシェイなどの基本文献を読み込みながら難民をめぐる概念と思想に関する理論的枠組みを構築し、では北東アジア地域(旧満洲、サハリン、シベリア、韓国)における文化活動の実態を調査し、雑誌や記録資料の収集と整理を行った。では文学と美術、映画を中心に分野横断的な表現の分析と、地域横断的な比較研究を進めた。各作業部会によって進められた調査・分析の結果を検討し共有することも目的として研究会を各年度に開催し、国内外の研究者を対面およびオンラインで招聘し、講演等を行っていただいた。繰り越した最終年度には韓国・大邱の慶北大学校の歴史記録研究室との共催で国際ワークショップを日韓をウェビナーで結んで開催した。

(2) 特に重点を置いた文化活動研究では調査のために訪問した旧満洲の長春、シベリアのイルクーツク、サハリンのユジノサハリンスクでは、それぞれの地域を代表する研究機関である東北師範大学、イルクーツク大学、国立サハリン大学と共催で国際会議を開催し、国際共同研究を行い、当地の研究者とも交流して、以後にも継続する国際ネットワークの形成にも着手できたかと思う。またハバロフスクでは抑留経験者の田中猛氏の全面的な協力によって『日本新聞』編集印刷跡地などの場所を調査するとともに、田中氏自身からも詳細な聞き取り調査を行うことが出来た。

4. 研究成果

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の活動に表れているように、難民は20世紀の国際社会という枠組みの中で成立した。しかし日本研究においてはそれを国際的な枠組みで検討する視点が稀薄であった。本研究は北東アジアという空間を対象とすることで、一国主義的な研究の限界を克服することを目指したが、それは日本研究と難民研究や移民研究とをつなげる意味を持っていたと考える。本研究は難民経験がどのように作品化されたかを作家の次元で明らかにするととどまらず、文学その他の芸術分野が複合する文化活動が抑留・留用経験の中で成立していることに着目し、文学研究と美術史・映画研究の知見を総合して研究を行った。そのことによって分野と地域を越えた学際的な共同研究の可能性を示すことが出来たのも成果の一つである。旧満洲・シベリアにおいて日本人留用・抑留者によって発行されていた雑誌・新聞の分析を進めるとともに、旧満洲・シベリア・サハリンを訪問して調査を行ったこと

で、彼らの文化活動の背景にある歴史的な脈をとらえることが出来た。東北師範大学、イルクーツク大学、国立サハリン大学と共同で開催した国際ワークショップはそれぞれの大学の研究者と研究資本を共有するネットワーク形成につながったと自負している。これまで日本人抑留者の活動を文化活動や表現活動という視点から総合的・国際的に研究したものは少なく、今日未解決の戦後処理問題が関心を集める中で、本研究の成果は大きな意義を持っていると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 80
2. 論文標題 転形期としての一九八九年と元号問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 -17
2. 論文標題 師 / 弟小説としての「微笑」 栖方の微笑はなぜ「美しい」のか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紋説	6. 最初と最後の頁 12-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 123
2. 論文標題 江戸川乱歩「人間椅子」はどのように書かれているか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学日本文学	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 -5
2. 論文標題 Between Tradition and Modernity: Tracing the Artistic Career of Taniguchi Fumie	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Register (Spencer Museum of Art , The University of Kansas)	6. 最初と最後の頁 40-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 85
2. 論文標題 小林喜巳子の版画：「彫刻刀で刻む社会と暮らし」展から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピープルズ・プラン	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 16
2. 論文標題 移動とマルチリンガリズム：OSS文書からみた太平洋戦争期のコリアン・アメリカン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋レビュー	6. 最初と最後の頁 18-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 17
2. 論文標題 GHQ内の朝鮮人通訳たち：検閲・非常事態宣言・朝鮮戦争	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋レビュー	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 22
2. 論文標題 在日朝鮮人の占める空間をめぐる：検閲・カノン・女性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 83
2. 論文標題 『月に吠える』は吠え続ける	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SAKU (萩原朔太郎研究会会報)	6. 最初と最後の頁 54-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 19
2. 論文標題 Herz und Mund und Tat und Terrorismus	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Inter-Asia Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 526-535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 なし
2. 論文標題 Listening to Poetry: The Call of the Poetry Reading Record	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立国会図書館歴史的音源ウェブサイト	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 81
2. 論文標題 沖縄のディアスポラ・フェミニストが創る世界：ローラ・キナ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ビープルズプラン	6. 最初と最後の頁 167-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 14
2. 論文標題 学問領域とジェンダー：天皇制研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ジェンダー史学	6. 最初と最後の頁 131-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 83
2. 論文標題 市民の描いた戦争体験画 濟州島、「沖縄戦の記憶と絵」展から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 168-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 38
2. 論文標題 2018年度「方法論の会」の開催にあたって：絵本は戦争と暴力をいかに伝えるか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本学報	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田由美	4. 巻 3
2. 論文標題 Recounting War, Experience and Memory: The Representation of Space in Zainichi Literature During the Korean War	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Universitas	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 17
2. 論文標題 来るべき協同作業にむけた覚え書き 三者への短い応答	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 原爆文学研究	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行, 坪井秀人, セルゲイ・クズネツォフ, アレクサンドラ・ククリーナ	4. 巻 26
2. 論文標題 Report on a Russian-Japanese Workshop" Internment of Japanese in Mongolia and Siberia in Postwar Period"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 THE BULLETIN OF IRKUTSK STATE UNIVERSITY HISTORY	6. 最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 98
2. 論文標題 『原爆を読む文化事典』の編集を振り返る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 251-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 15
2. 論文標題 朝鮮近現代史とトライリンガリズム: 1940年代の朝鮮人米軍通訳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報	6. 最初と最後の頁 2 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 19
2. 論文標題 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大衆文化	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺直紀	4. 巻 spring
2. 論文標題 Korean soldier internees in Siberia and the issue of (un)redressability	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Newsletter No. 82, International Institute for Asian Studies	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 60 - 5
2. 論文標題 二十世紀日本語詩を思い出す 23	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代詩手帖(思潮社)	6. 最初と最後の頁 158-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 60 - 6
2. 論文標題 二十世紀日本語詩を思い出す 24	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代詩手帖(思潮社)	6. 最初と最後の頁 184-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 60 - 7
2. 論文標題 二十世紀日本語詩を思い出す 25	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代詩手帖 (思潮社)	6. 最初と最後の頁 148-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 なし
2. 論文標題 大手拓次とは誰か 神話化されてきた詩人像	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『詩人大手拓次 孤独の箱のなかから 』（大手拓次生誕130年記念展図録）	6. 最初と最後の頁 32 - 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 75
2. 論文標題 テロルの未決算 大江健三郎「政治少年死す」ほか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 昭和文学	6. 最初と最後の頁 144-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪井秀人	4. 巻 なし
2. 論文標題 詩を聞くこと 朗読詩音源のたのしみ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立国会図書館ウェブサイト「音源紹介」	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 76
2. 論文標題 演劇「白い花を隠す」：NHK・ETV改ざん事件から、抑圧の連鎖を断つ試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 159-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 1061
2. 論文標題 なぜ女性の偉大な戦争画家がいなかったのか 谷口富美枝の場合	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 102-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 78
2. 論文標題 ベトナムの現代史と難民を表現するーリー・ホアン・リー個展	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 159-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 51
2. 論文標題 日本画家・谷口富美枝の思い出、足跡をたどって 船田富士男氏に聞く	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 待兼山論叢（日本学篇）	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 79
2. 論文標題 既存のモダンガール像に挑戦した日本画家 谷口富美枝（仙花）展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ピープルズプラン	6. 最初と最後の頁 146-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田由美	4. 巻 111
2. 論文標題 マイナー文学 の政治と言語 後藤明生における《他者》とのめぐり会い	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本学報（韓国日本学会）	6. 最初と最後の頁 111-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 16
2. 論文標題 四國五郎と辻詩の問題 -シベリア収容所の民主運動から広島のサークル運動へ -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 原爆文学研究	6. 最初と最後の頁 89-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川口隆行	4. 巻 1
2. 論文標題 原爆文学研究の現状と課題：東アジアという視座から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバル日本研究クラスター報告書	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 111
2. 論文標題 金石範文学におけるスパイ、通訳、アメリカ：複数の朝鮮文学をつなぐために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本学報（韓国日本学会）	6. 最初と最後の頁 95 - 109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋恵媛	4. 巻 15
2. 論文標題 金民論 在日朝鮮女性を描いた小説家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪経済法ア大学アジア太平洋研究センター年報	6. 最初と最後の頁 2 - 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 5
2. 論文標題 ひとりひとりの死を弔うために 長谷川四郎「小さな礼拝堂」論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 跨境 日本語文学研究	6. 最初と最後の頁 153-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計68件（うち招待講演 47件 / うち国際学会 48件）

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Igor Stravinsky and Kosak Yamada: Their Waka-Songs in Modernist Context
3. 学会等名 McClellan Lecture（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 In the Time of Survival: How to Relocate the Japanese Poets Repatriated from Siberia
3. 学会等名 Japanese Diaspora to the Americas: Literature, History and Identity (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Exploration of New Territory: Ito Hiromi 's Works after American Era
3. 学会等名 SOAS Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 The Waka-Song as an Intersection of Japonism and Modernism
3. 学会等名 Modern Japan in the Comparative Imagination (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Poetics on the Street: Transculture, Translanguage and Migration
3. 学会等名 Public Lecture, University of Queensland (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 The Poetics of Border-Crossing: A Case Study of Ito Hiromi from the 1990s to the Present
3. 学会等名 Staff & RHD Seminar, University of Queensland (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 世界文学の現在と将来
3. 学会等名 木浦大学校学術講演会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 日露戦後文人たちの 樺太表象
3. 学会等名 Crossroads of Cultures: Sakhalin Island in Terms of History and Literature (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Ito Hiromi: Poet at Transit Lounge
3. 学会等名 Transition: ein Paradigma der Weltlyrik (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 日露戦後の樺太ノサハリンと文学者たち
3. 学会等名 山東女子学院大学学術講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 世界文学のなかの日本語文学
3. 学会等名 中国日本文学研究会創立40周年記念国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Representations of Karafuto/Sakhalin after Russo-Japanese War
3. 学会等名 New Directions of Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 教養のたそがれと人文知 終焉 後の文学そしてグローバル・ヒストリー
3. 学会等名 「リベラルアーツ × X」第10回講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下における 人文知 夢野久作が描いた 東亜 とその未来
3. 学会等名 台湾日本語文学会2019年度大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 青春の協同創作 シベリア収容所から朝鮮戦争下の広島へ
3. 学会等名 詩画人 四國五郎の歩んだ道ーシベリアからヒロシマへー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 動物たちの原爆文学
3. 学会等名 エコクリティシズム研究学会第32回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 対話「表現の不自由を越えて」
3. 学会等名 百代の過客（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原 恵
2. 発表標題 あいちトリエンナーレ2019を振り返って 出品作品から考える現代社会
3. 学会等名 日本地方自治研究学会（関西部会、第116回）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原 恵
2. 発表標題 イルクーツク & サハリン調査その後：美術
3. 学会等名 難民 の時代とその表現 第7回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宋 恵媛
2. 発表標題 「在日朝鮮人文学」と脱植民地化、南北分断、バイリンガリズム
3. 学会等名 在日コリアン文学の新しい歩みのために（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋 恵媛
2. 発表標題 「革命」の記録としての在日朝鮮人文学史
3. 学会等名 第四回延世韓国学フォーラム「東アジアにおける革命の歴史と記録の現在」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 李恢成の文学世界と原点としてのサハリン
3. 学会等名 Crossroads of Cultures: Sakhalin Island in Terms of History and Literature (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Terayama Shuji on the Street
3. 学会等名 Japan-France-Global Workshop (パリ、Columbia University's Reid Hall) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 From International to Global?
3. 学会等名 JSA-ASEAN2018 (インドネシア大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 グローバル・ヒストリーと世界文学 日本研究の将来像
3. 学会等名 高麗大学校講演会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 日本語文学の領域
3. 学会等名 シンポジウム「メディア時代の日本」(チュラーロンコーン大学、バンコク)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Throw Away Your Books, Rally in the Streets: Terayama Shuji and his Thought of Street
3. 学会等名 ワークショップWords and Violence(ライデン大学)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Public Lecture "Surviving on the foreign soil: the "postwar"of Japanese laborers detained in Manchuria"
3. 学会等名 国立交通大学講演会(台湾・新竹)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Modern Japanese Women's Poetry
3. 学会等名 ウィーン大学日本学講座講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Japanese “ Postwar ” in Manchuria
3. 学会等名 イェール大学 (CEAS) 講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 和歌を翻訳する、和歌を歌う
3. 学会等名 立教大学文学部文学科日本文学専修公開セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 「戦後」イメージ再：『マッカーサー元帥レポート』の戦争画
3. 学会等名 広島市立大学平和研究所「戦後史再考プロジェクト」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 「戦争「体験」を描く絵画 沖縄・広島・空襲の「記憶」」
3. 学会等名 済州4.3 70周年特別企画「沖縄戦の記憶と絵」国際シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 荒木光子の戦後史：『マッカーサー元帥レポート』を中心に
3. 学会等名 松本清張記念館 第39回研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 谷口富美枝（1910-2001）にとっての“Trans.”：日本/USAに生きた女性日本画家
3. 学会等名 国際シンポジウム「環太平洋の日系ディアスポラ・アート」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 《ディナー・パーティ》からゲリラ・ガールズまで
3. 学会等名 SEA (Socially Engaged Art) レクチャー+ディスカッション・シリーズ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 移動の経験を歴史化 / 現代化する
3. 学会等名 北京第二外国語学院国際学術研究会『歴史中的移動』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 Hiroshima's Cultural Circles: Warera no uta no kai (Our Poems)
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2019 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 四國五郎のシベリア抑留体験 表現と運動の軌跡
3. 学会等名 日露国際学術ワークショップ「戦後モンゴルとシベリアにおける日本人抑留者」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 山代巴の表現と運動 『原爆に生きて』にみる社会運動と文化生産の問題
3. 学会等名 民衆思想研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 50年代サークル運動研究と原爆文学研究をつなぐ
3. 学会等名 国際学術ワークショップ「アメリカ問題、東アジア冷戦文化研究の現状と課題」(ソウル)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝淵園子
2. 発表標題 芥川龍之介におけるロシア文学邂逅の磁場 小宮豊隆、エリセーエフとの接点から
3. 学会等名 第13回国際芥川龍之介学会ロシア大会シンポジウム「芥川文学のなかのロシア / ロシア文学のなかの芥川」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝淵園子
2. 発表標題 『赤い鳥』と海外の作家
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会シンポジウム「鈴木三重吉創刊『赤い鳥』とフランス語文学の移入と再話」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝淵園子
2. 発表標題 日本近代文学史から見る「世界文学」の射程 芥川とロシア文学との関わりを端緒として
3. 学会等名 大阪市立大学文学研究科プロジェクト「日本文学を世界文学として読む」第3回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 Bilingualism in Zainichi Korean Literature: An Alternative Literary History
3. 学会等名 ハワイ大学マノア校コリアンスタディーズ研究科主催 “Zainichi Korean Literature and Culture “（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下の外地日本語雑誌を研究することの意義
3. 学会等名 韓国日本近代学会基調講演、韓国・韓南大学校（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』
3. 学会等名 日韓学術交流会 韓国・高麗大学校日語日文学科・グローバル日本研究院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 朝鮮人シベリア抑留
3. 学会等名 延辺大学校講演会、延吉（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺直紀
2. 発表標題 日本敗戦後、シベリアに抑留された朝鮮人たち
3. 学会等名 2018東アジア韓国学学術会議、仁荷大韓国学研究所・人文科学研究所、仁荷大学校（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 The Dead recolonizes the Living: Rethinking the Discourses on the Dead after "Fukushima" in Japan
3. 学会等名 The Legacies of Pax Americana and the Future of the Humanities (台湾、新竹) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 From Outside of the Fence: Opening the Wound of Japanese American Underground Operatives
3. 学会等名 4th Trans-pacific Workshop (UCLA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Discourses on the Dead in Post-Fukushima Japan
3. 学会等名 JSAA (The Japanese Studies Association of Australia) 2017 Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 夏目漱石と観相学
3. 学会等名 チュラーロンコーン大学記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Herz und Mund und Tat und Terrorismus
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (リスボン) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 A border-crossing poet: Ito Hiromi from 1990s to the present
3. 学会等名 International Symposium on Poetry and Translation (キャンベラ) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Living with the Living: Discourse on the Dead in Post-Fukushima Japan
3. 学会等名 Japanese Studies After 3.11 (ライブツイヒ) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪井秀人
2. 発表標題 Consuming body and consumed body: eating disorders in contemporary Japanese Literature and Manga
3. 学会等名 Le corps dans les litteatures d'Asie aux XXe et XXle sicles (パリ) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 急増する現代の「戦争画」 作品と歴史的背景
3. 学会等名 15年戦争研究会、第209回例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 「戦争画」概念再考 「空襲」は銃後の図像か
3. 学会等名 日本近代洋畫的養成及發展」國際學術研討會（「日本近代洋畫の醸成と發展」國際シンポジウム）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 急増する現代の戦争画と戦争の記憶
3. 学会等名 The 2nd International Forum for war visual in Asia-pacific Area（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 谷口富美枝の画業と足跡
3. 学会等名 呉市立美術館のあゆみ展講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 Postwar US-Japan Collaborative Production of “War Painting” for the Reports of General MacArthur
3. 学会等名 2018 AAS (Association for Asian Studies) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平田由美
2. 発表標題 在日朝鮮人女性文学におけるセクシュアリティの表出と其の変化 宗秋月・李良枝・鷺沢萌
3. 学会等名 東国大学文化学院叙事文化研究所・東岳語文学会主催国際学術大会『在日朝鮮人がノを語る』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 二つの「戦後」文化運動 詩画人四國五郎の軌跡
3. 学会等名 日文研共同研究会「戦後日本文化再考」パネル「運動と表現」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 原爆文学研究の現状と課題 東アジアという視座から
3. 学会等名 国際ワークショップ 東アジアから原爆文学を読みなおす 嶺南大学校（韓国・慶北市）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口隆行
2. 発表標題 一 国史的な日本文学・文化研究を超えて 東アジアという視座
3. 学会等名 広島大学・ソウル大学合同シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宋恵媛
2. 発表標題 リチャード・キムと北影一 コリアン・ディアスポラ作家の日本と米国体験
3. 学会等名 朝鮮学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 ひとりひとりの死を弔うために 長谷川四郎「小さな礼拝堂」論
3. 学会等名 韓国 東義大学校講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 坪井秀人編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 高度経済成長の時代（戦後日本を読みかえる）	

1. 著者名 坪井秀人編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 ジェンダーと生政治 (戦後日本を読みかえる)	

1. 著者名 坪井秀人・秦剛編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 -
3. 書名 復刻・雑誌『ツルオカ』	

1. 著者名 坪井秀人ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 一宮市博物館	5. 総ページ数 -
3. 書名 図録『尾張に生きた詩人 佐藤一英展』	

1. 著者名 坪井秀人編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 603
3. 書名 戦後日本文化再考	

1. 著者名 坪井秀人・瀧井 一博・白石 恵理・小田 龍哉 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 越境する歴史学と世界文学	

1. 著者名 溝淵園子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 群像社	5. 総ページ数 400
3. 書名 翻訳 の文学誌	

1. 著者名 宋恵媛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ソミョン出版(韓国)	5. 総ページ数 426
3. 書名 「在日朝鮮人文学史」のために	

1. 著者名 渡辺直紀ほか Annika A. Culver, Norman Smith ed.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Hong Kong University Press	5. 総ページ数 328
3. 書名 Manchukuo Perspectives: Transnational Approaches to Literary Production	

1. 著者名 石川巧ほか 河野貴美子、Wiebke DENECKE、新川登亀男、陣野英則編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 562
3. 書名 日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す	

1. 著者名 川口隆行ほか 紅野謙介編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 幻戯書房	5. 総ページ数 251
3. 書名 どうする？どうなる？これからの「国語」教育	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 274
3. 書名 戦後日本を読みかえる 1 『敗戦と占領』	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 戦後日本を読みかえる 6 『バブルと失われた20年』	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 212
3. 書名 戦後日本を読みかえる2『運動の時代』	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 戦後日本を読みかえる5『東アジアの中の戦後日本』	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 220
3. 書名 戦後日本を読みかえる3『高度経済成長の時代』	

1. 著者名 坪井秀人(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 294
3. 書名 戦後日本を読みかえる4『ジェンダーと生政治』	

1. 著者名 坪井 秀人、シュテフィ・リヒター、マーティン・ロート(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 338
3. 書名 世界のなかの ポスト3.11 ヨーロッパと日本の対話	

1. 著者名 キース プラット、宋 恵媛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 480
3. 書名 朝鮮文化史	

1. 著者名 宋 恵媛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 緑蔭書房	5. 総ページ数 1,182
3. 書名 日朝鮮文学会資料集(1945年 - 1960年)1, 2, 3	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 380
3. 書名 幻の戦時下文学	

1. 著者名 石川巧（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 800
3. 書名 海軍外郭団体雑誌『くろがね』	

1. 著者名 石川巧（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 900
3. 書名 『新生活』解題・復刻版	

1. 著者名 北原恵（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大阪大学文学研究科・北原恵研究室「軍事主義から見る女性美術家と視覚表象」基盤研究（c）成果報告書	5. 総ページ数 128
3. 書名 科研報告書 特集：谷口富美枝研究 論文・資料集	

1. 著者名 川口隆行（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 396
3. 書名 原爆 を読む文化事典	

1. 著者名 川口隆行, 四國五郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 544
3. 書名 『わが青春の記録』(下)	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 320
3. 書名 幻の雑誌が語る大東亜戦争	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 2400
3. 書名 「月刊さきがけ」復刻版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>THE BULLETIN OF IRKUTSK STATE UNIVERSITY http://izvestiahist.isu.ru/ru/journal?id=24</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北原 恵 (Kitahara Megumi) (30340904)	大阪大学・文学研究科・名誉教授 (14401)	
研究分担者	川口 隆行 (Kawaguchi Takayuki) (30512579)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授 (15401)	
研究分担者	溝渕 園子 (Mizobuchi Sonoko) (40332861)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・教授 (15401)	
研究分担者	平田 由美 (Hirata Yumi) (60153326)	大阪大学・文学研究科・名誉教授 (14401)	
研究分担者	石川 巧 (Ishikawa Takumi) (60253176)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	宋 恵媛 (Song Hyewon) (60791267)	大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授 (24402)	
研究分担者	渡辺 直紀 (Watanabe Naoki) (80409367)	武蔵大学・人文学部・教授 (32677)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Crossroads of Cultures: Sakhalin Island in Terms of History and Literature	開催年 2019年～2019年
--	--------------------

国際研究集会 国際ワークショップ「東アジアを移動する人々 20世紀国民史の脱構築と記録文化」	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ロシア連邦	サハリン国立総合大学			
ロシア連邦	イルクーツク州立大学			
中国	東北師範大学			
韓国	慶北大学校	日本研究センター	歴史文化アーカイブ研究センター	